

巻頭言

新教育課程の着実な実施に向けて

県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事 加藤 純一

新学習指導要領に基づく教育課程が始まり、2年目となりました。「観点別学習状況評価を適切に行えているのか」、「数学Bの統計的な推測をどのように教えるのか」、「ICTの効果的な活用法とは」等、先生方は依然として多くの課題に取り組まれていることと存じます。

観点別学習状況評価では、ABCの評価方法が注目されがちですが、学習評価の主な目的は、教師の指導改善と生徒の学習改善です。学習評価については、日々の授業においても、生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが求められますが、毎時間小テストやレポート等を課し評価を記録することは大きな負担となることが懸念されます。評価を充実させると共に、継続していくためには、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の区別を意識することが大切です。

「指導に生かす評価」とは、今後の指導や支援に生かしていくために実施するもので、日々の授業の中で常に行います。例えば、机間指導やノート点検、振り返りシート、授業中の生徒の様子等から学習状況を評価することがこれにあたり、生徒への声かけ等のフィードバックを行い指導に生かします。

一方、「記録に残す評価」とは、指導した内容について、生徒の達成状況を見取り、記録に残して総括するためのものです。単元で少なくとも1回は評価の場面を設定することが求められます。また、指導した内容の達成状況が適切に見取れるよう評価の場面を精選し、計画的に実施することが重要です。

さて、私自身の話になりますが、高校生のときに陸上部に所属していました。顧問の先生は練習時の様子や大会のタイムから、スピード面、持久面、フォーム、メンタル面と様々な角度から指導していただき、私はその指導内容を毎日ノートに記録し、次の練習に生かしていました。様々な角度（観点別）からの指導があったからこそ、次に何をすべきかが明確になり、次の練習に生かすという主体的な行動に繋がったのではないかと思います。先生方におかれましても、学習評価の第一義を改めて考え直し、「指導と評価の一体化」の充実を目指していただきますようお願いいたします。

学習指導課では令和4年度から3年かけて全ての県立高等学校訪問を行うこととしており、令和5年8月までに51校の訪問を実施してきました。先生方の御努力により授業改善への取組が進んでいる一方で、生徒の主体的な取組や協働的な学びの実践について課題と感じている先生方もいました。令和5年8月9日（水）に高等学校教育課程研究協議会を千葉県高等学校教育研究会数学部会と共催で対面形式にて開催することができ、その中で、定期考査等の作成や観点別評価等に関する情報交換を行いました。参加された先生方は勤務校の先生方に協議会の内容を伝え、課題解決に向けた糸口としていただきますようお願いいたします。

結びに、数学部会の事務局及び会員の皆様による、数学教育の改善・充実に向けた熱意ある取組に感謝するとともに、数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」が一層充実・発展し、今後とも多くの先生方の研修の一助となり、日々の実践に活用されることを祈念しております。